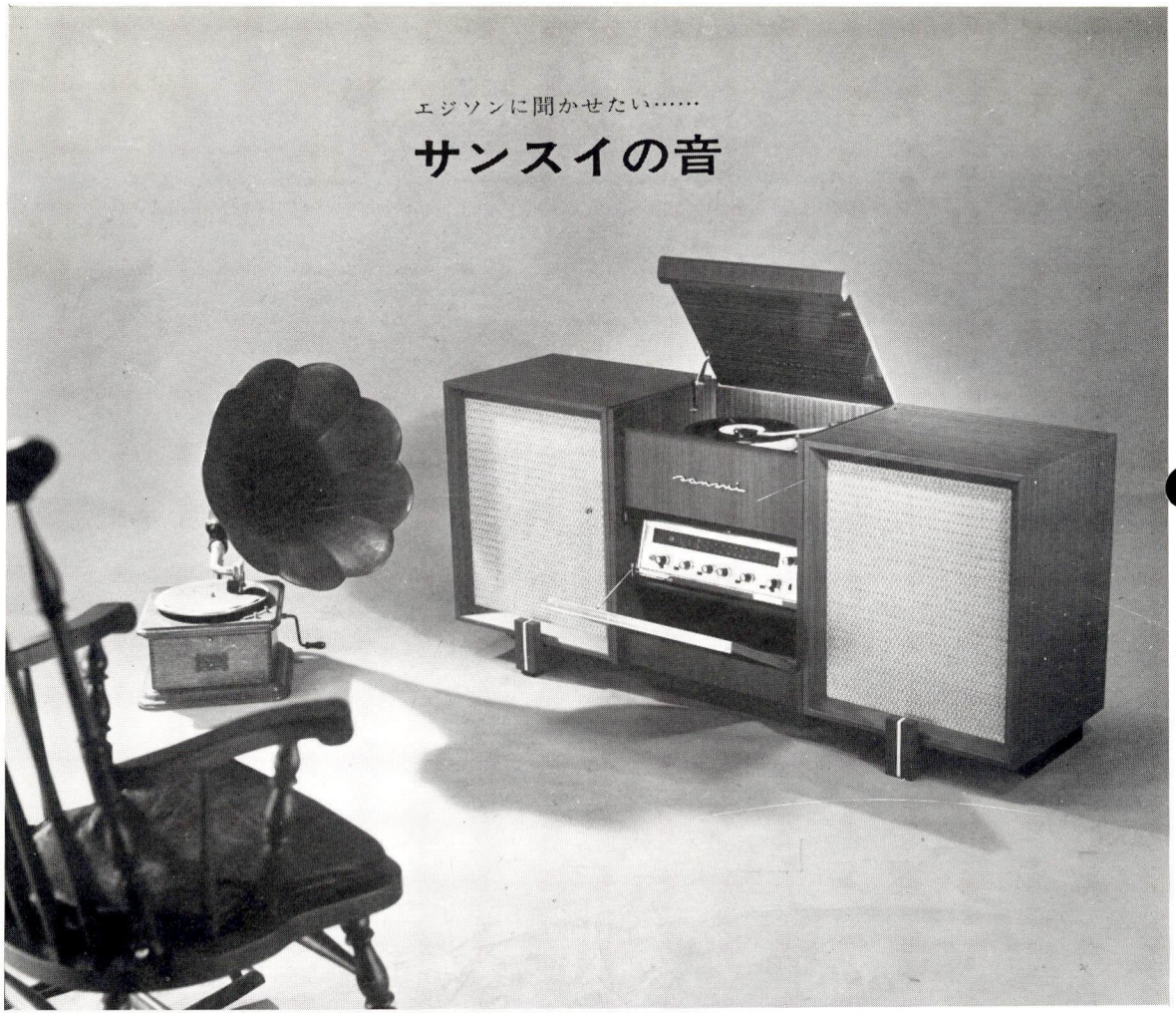
7th 新響

東京労音新響楽団第Ⅰオーケストラ

第7回定期演奏会





＊音づくりのエリート！

サンスイ

コンパチブル・ステレオ

●FMマルチ内蔵

APS-420

現金正価 112,000円 ／ 月賦定価 118,000円

APS－420は、プロフェショナル級の高級パーツを用いた《音質本位のセパレート・ステレオ》で、鋭いFMマルチ・セパレーション、ダンピングのきいた低域再生が自慢です。Hi－Fiマニアに特におすすめします。

FMマルチ回路内蔵■32ワット高出力アンプ■ムービングマグネット・カートリッジつきプレイヤー■コンデンサ・ツイーター採用3ウェイSP

山水電気株式会社

本　　社　東京都杉並区和泉町460　☎ 328－0111
ショールーム　東京都新宿区三光町 5 3　☎ 368－3410

NEW SYMPHONY ORCHESTRA

7 th Subscription Concert

労東
音京

新交響楽団第一オーケストラ第7回定期演奏会

1965年2月3日 7時
日比谷公会堂

I　歌劇「売られた花嫁」序曲　　スメタナ
Oper "Die verkaufte Braut" Ouvertüre　　**Smetana**

II　交響曲第94番ト長調「驚愕」　　ハイドン
Symphonie Nr. 94 G-dur "mit dem Paukenschlag"　　**Haydn**

1　ゆるやかに歌うように　急速に
Adagio cantabile—Vivace assai

2　ゆっくりと
Andante

3　メヌエット　早く
Menuetto : Allegro molto

4　きわめて早く
Allegro di molto

III　交響曲第6番ロ短調「悲愴」作品74　　チャイコフスキー
Symphonie Nr. 6 H—moll "Pathétique" op. 74　　**Tschaikowsky**

1　ゆるやかに　あまり早やすぎぬように
Adagio—Allegro non troppo

2　優美に早く
Allegro con grazia

3　早く活発に
Allegro molto vivace

4　終曲　ごく緩やかに哀悼的に
Finale : Adagio lamentoso

指　揮　芥　川　也　寸　志
Conductor : YASUSI AKUTAGAWA

Wednesday, February 3 at 7.00 p.m.

Hibiya Public Hall

音楽する心

—芥川也寸志と新交響楽団—

向坂正久

北米に演奏旅行をして帰国した渡辺暁雄氏が，こんな話をしてくれた。向うにはアメリカン・オーケストラ・リーグという団体があって実に3,000ものオーケストラが加盟している。しかし，この中プロフェッショナルなものは5パーセントにすぎないというのだ。つまりアマチュアの団体がいかに多いかというわけである。その中には学生だけのものもあれば，同好の士がより集まったものもあるであろう。とにかく，このアマチュアの層の厚みがプロのオーケストラの底辺として重要であり，愛好家の量的質的な構成に役割の大きいことは充分に想像出来ることなのである。

日本の場合を考えてみると，こうしたオーケストラ・リーグを作った場合，プロの数も決して多くはないが，なによりもアマチュア・オーケストラが極めて少ないことが明瞭に浮きぼりされるに違いない。そうした中で鑑賞団体である東京労音が新交響楽団というオーケストラをもち，育てていることは注目に値いすることなのである。

東京労音は多角的に音楽を提供していて，その功績はここで触れるまでもないけれど，その創立当初から，たとえば「第九」とか「森の歌」といったもので，会員参加の公演を打出してきた。その方向をさらに徹底して，会員によるオーケストラを作り，運営している。これは素晴らしいことである。しかもその指導者に芥川也寸志氏が存在していることが何よりも彼らの「音楽する心」に強い励みとなっていると想われる。

芥川氏は僕のもっとも尊敬する音楽家のひとりである。氏は余りにも才能が豊かだから「往くところ可ならざるなし」で作曲家，指揮者，執筆者，教育者，司会者とあらゆる仕事で一流の名声をもっている。氏ほど多くの顔をもち，そのすべての顔が音楽的に統一されている人も珍らしいだろう。氏の音楽観について，僕はかって「音楽の友」誌の対談でいろいろと話をうかがったが，その偏らないものの考え方にすっかり敬服したものであった。

こんなことをいわれたのを記憶している。「カラヤン指揮のベルリン・フィルの演奏するベートーヴェンも，片田舎の少年が吹くハーモニカの小さなメロディも，どちらも立派な音楽なのです。音楽に良し悪しはない。高い低いもない。大切なのは音楽を感ずる心です」と。僕はこの言葉が胸にしみた。それまで僕はクラシックだけが音楽で，あとはすべて低俗なものと決めていたのであるが，その言葉に啓発されて，あらゆる音楽に興味をもつようになった。このことを，僕は紙上をかりて芥川氏に感謝したいのである。

その折に氏はまた，こんなことも話された。「慶応の中等部で1年間ほど音楽を教えましたが，大体音楽というのは知識じゃないんで点数であらわすべきもんじゃないんですよ。だから皆10点にしてしまいました。ところが，その中に休学した人がいてね，無責任だというのでクビになった。これは音楽だけのことではないけれど，教えるということは学ぶということなんで



す。そのことを教育者というのはわかっていないような気がする」この切実な体験による説話をここに引用したのは，おそらく氏は新交響楽団の指導をしながらも教えるのではなくて学んでいるに違いないと想像するからである。だから僕はこの原稿をまとめる前に一度，練習風景をのぞいてみたい気持が強かった。氏の教え方，いや芥川流にいうなら学び方というのは，きっと他に類例のない方法を生んでいる筈だ。才気と優しさに充ちた言葉で，オーケストラの人たちを音楽の中に自然と融けこませている姿を眺めるのは，無類に愉しいものであろう。それは，あるいは本番以上に愉しいかも知れない。

もうひとつ芥川氏の言葉をとりあげる。それは氏の人生哲学のようなものだが，これもまた僕に深い感銘を与えたものだった。「人間というのは，生れる時も，死ぬ時も自分の意志で決められない。だから生きている間は自分の意志で，しかもエキサイトする対象を常にもって生きなければならない。僕は作曲だけでなく，エキサイト出来る仕事なら何でもやってみようという気持でいるんです」

この言葉から考えて新交響楽団の指揮者という仕事も，氏をエキサイトさせる対象なのだということがわかる。多忙さ（おそらく氏は最も時間の少ない人種だと思うが）の中で，短期間ではなく，長期にわたってアマチュア・オーケストラの指導を続ける氏の偉さもさることながら，芥川氏をエキサイトさせ続ける新交響楽団のメンバーの人たちの熱意のほども，推しはかって立派なものだと思うのである。

良き指導者のもとに集まった心強い仲間たちが研讃の成果をここに発表するわけだが，曲目もスメタナ，ハイドン，チャイコフスキーと実に堂々たるもので，僕はその日の来るのが待遠しい。こうしたアマチュアの着実で豊かな芽生えこそ，オーケストラ界の底辺を形づくるものであり，この積極的な姿勢の中に従来の鑑賞団体がもたなかったところの東京労音のすぐれた特質があるといえるのである。アマチュアに完璧な演奏を望むような人，つまりレコードやプロのオーケストラとの比較をしたがるような人は今夜の聴衆にはいないと思うが，あなたの仲間たちの演奏から，音楽の本質を汲みとってほしいものである。アマチュアの最良の演奏とは，その巧拙ではなく，いかに「音楽する心」が会場に漲ぎるかということにある。僕は15年あまりプロのオーケストラ界と接点をもち続けてきたが，学生オーケストラやＯＢ交響楽団のような団体の公演に行くのを常に愉しみとしてきた。それは何故かといえば，プロはあくまで仕事という意識に陋われ，演奏の自発性が失われがちなのに比して，時としてアマチュアの場合の方が深い感動をよぶことがあるからである。芥川氏と新交響楽団の演奏にも，そうした最上の自発性が漲ぎるであろうことを僕は期待しているのである。

（音楽評論家）

曲目解説

スメタナ
歌劇「売られた花嫁」序曲



Bedrich Smetana
(1824〜1884)

ボヘミヤを代表し，その音楽の父ともいわれているスメタナの名はドヴォルザークと共に大変親しみやすいものを持っていますが，彼は幼い頃よりピアニストとしてすぐれた才能を現わし，1856年スエーデンに招かれて指揮者になってからは交響詩などの作曲も行い，更に1860年プラーハに国民歌劇場が作られるとそこの主要なメンバーの一人として活躍しました。

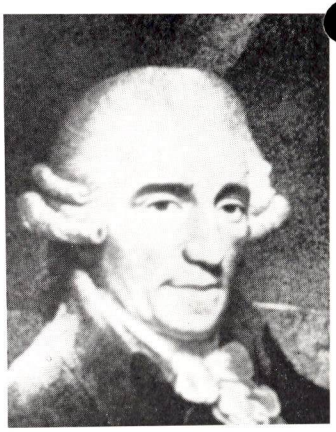
しかしながらこの歌劇場においてはイタリヤ歌劇のボヘミヤ語訳位しか上演されずこの状態をみたスメタナは自分で国民歌劇の作曲にとりかかり，その第1作「ボヘミアのブランデンブルグ人」に続き1866年「売られた花嫁」を作曲し，ボヘミア最大の作曲家としての地位を確立したのでした。

この歌劇の筋は，ボヘミアの豪農クルシュナの娘マリーと彼女を愛する下男のハンスとの物語りで，マリーの父のクルシュナは旧知の友人ミシヤの馬鹿息子ウエンツェルにマリーを嫁がせようとして仲人業をやっているケザールに依頼します。

ハンスを愛しているマリーはこれを強く拒否するのですが，ケザールはハンスに300クラウン出すからマリーのことを思い切るように云い，ハンスを承知させてしまいます。ここで奇妙なことが起り，ハンスはミシヤとその妻の行方不明中の長男であることが解りハンスは妻と300クラウンを手に入れることが出来たのでした。

この序曲の主題は第2幕の終曲「花嫁を売る主題」から取られたものでヘ長調2分の2拍子で弦と木管の最強音によってはじまり，第1主題，第2主題の後，展開部を経てコーダに入り，第2主題を基とした旋律が木管楽器で歌われ，だんだん盛りあがりを示し，次第に高潮して華やかに曲を終ります。

ハイドン
交響曲第94番ト長調「驚愕」



Joseph Haydn
(1732〜1809)

ハイドンは1761年から約30年間ハンガリーのアイゼンシュタットのエステルハージー家に仕えましたが，1790年ハイドンの良き理解者であったニコラス公が他界したことによりエステルハージー家を去り，ヴァイオリニストで後に音楽マネージャーとして活躍したザロモンの招きにより，1791年及び1794年の2回に亘りイギリスを訪問しました。このイギリス訪問中ザロモンとの契約によって作曲された12の交響曲を「ザロモン・セット」と呼んでいますが，ハイドンの交響曲中最高の水準を示していると云われています。

本日演奏される第94番はザロモン・セットの第2曲で最初のロンドン訪問のときに作曲され，第2楽章のテインパニィの突然の最強音による「驚愕」という標題により有名な交響曲ですが，次の4つの楽章から出来ています。

第1楽章　4分の3拍子の序奏がゆっくりと管楽器と弦楽器の対話に始まり8分の6拍子の主部に入ります。第1主題が第1ヴァイオリンで提示され，全楽器でその後半が奏され，やがて第2主題が現われますが展開部は比較的短く第1主題を中心に展開され，再現部はフルートとヴァイオリンに始まり，第2主題がハ長調で再現されこの楽章を終ります。

第2楽章　ハ長調4分の2拍子。変奏曲形式。この有名な旋律はまず弱奏で弦楽に現われ，主題の前半部がもう1度くりかえされると急に全楽器がフォルテでいきなり爆発します。

第1変奏は第2ヴァイオリンの変奏に第1ヴァイオ

リン及びフルートのオブリガートが加わり，第２変奏は短調となり，第３変奏は前半がオーボエの16分音符によって示されヴァイオリンに移るとフルートとオーボエが美しいオブリガートを奏します。第４変奏は全楽器のフォルテで始まりヘルマータを経てこの楽章を終ります。

第３楽章　メヌエット　ト長調

ハイドンの交響曲のメヌエットの中でも最も充実したものの一つで素朴さを感じさせます。トリオの部分もメヌエットの部分と非常に感じが似ており，集約された形で書かれています。

第４楽章　終曲ト長調４分の２拍子。ソナタ形式。

ロンドを思わせるソナタ形式で４小節の動機の反復からなる第１主題と軽快な伴奏を伴って出てくる旋律的な第２主題の対比はすばらしく，楽想の転換が実にきびきびしており，ハイドンの交響中でも秀れた終楽章の一つであると考えられます。

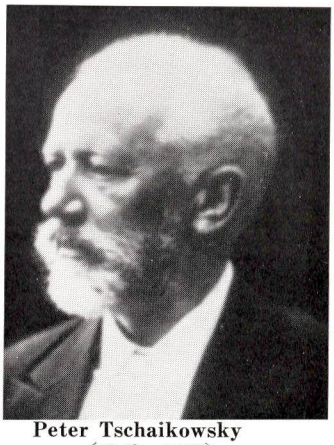
チャイコフスキー

交響曲第６番ロ短調「悲愴」作品74

チャイコフスキーはバイロンの劇による「マンフレッド交響曲」を含めて全部で７つの交響曲を作曲しましたが，今日演奏される第６番はそれらの中でももっともすぐれた作品です。

チャイコフスキーはこの第６交響曲を1893年の２月から３月にかけて西部ロシアのクリンに滞在していた頃書きはじめました。その頃甥のダヴィドフにあてて「旅の途中で新しい交響曲の構想が心に浮んだ。こんどの交響曲には標題があるが，それはだれにも謎であるべきもので，想像できる人に想像させよう。この標題はまったく主観的なものだ。私は旅行中に頭の中でこれを作曲しながら幾度となく泣いた」という手紙を書いています。そしてその年の夏に全曲を完成し，10月16日ペテルスブルグでチャイコフスキーの指揮により初演されました。初演のときには標題はなく，初演後，弟のモデステと相談してこの曲の標題を「悲愴」ときめたのです。事実この曲にはこの名にふさわしく人生に対する恐怖と絶望，そして死を暗示する精神的苦悩が美しく感動的に表現されています。

それは特定の事件や個人的体験をえがいたものではなく，運命の圧力に対抗する力を探究しつづけてきたチャイコフスキーの思想的，情緒的内容の表現でした。重苦しい暗雲のたれこめたロシアの現実がチャイコフスキーを深い憂愁のなかにとじこめていますが，そのなかで彼は，何か「新しい歌を歌いたい」という意欲を燃やしつづけます。



Peter Tschaikowsky
(1840～1893)

そして運命に打ち克つ人間の姿を描いた交響曲第４番と第５番をへて，ついに第６番に到達したのでした。それは決して絶望や敗退の音楽ではありません。重苦しい現実と夢のような世界，死の苦悩と生きる喜び，こういう主題を劇的に対比させて組立てているこの曲の中に，私達は躍動的な力によって苦悩を克服していこうとするチャイコフスキーの姿をみることが出来ます。

曲は４楽章から成っていますが，古典的な形式とは違って，第２楽章がゆるやかな曲ではなく，急速な曲，また第４楽章が快活な曲ではなくて，重々しい曲になっています。

第１楽章　ロ短調４分の４拍子。ソナタ形式。曲はうめくような重々しい序奏につづいてアレグロの主部に入り，苦悩と不安におののく第１主題が現われ，やがて明るい想い出と楽しい夢を思わせる優美な旋律の第２主題となり，この主題がからみあいながら曲は激しく急速に展開されます。

第２楽章　ニ長調４分の５拍子。３部形式。

不安定なリズムにのってはかない憧れにも似た旋律がチェロで奏され，やがて，中間部に入ると哀愁をおびてはいるが明るい優雅な旋律が現われ，曲は流れるように進んでいきます。

第３楽章　ト長調４分の４拍子。

弦の奏する急速なスケルツオの主題ではじまり，これに歯切れのよい行進曲風の主題が断片的に入ってきます。そして運命との斗いを思わせるようにこの二つの主題がくりかえされ，高らかな行進曲のひびきのうちに曲を終ります。

第４楽章　ロ短調４分の３拍子。３部形式。

悲痛な主題がふりしぼるように弦で奏され，曲は切々と嘆き訴えるような暗いひびきにおおわれ，しだいに高潮していきますが，やがて，あえぐように静かに曲をとじます。

新響のこと

芥川也寸志

§　　§

＜一度でいいから演奏を聞いてください＞といわれて，私は気軽な気持で＜東京労音アンサンブル＞の練習場へ行ってみました。

集まっていたのは，12，3人ほどで，間もなくはじまった演奏は，スマートな名前に似合わず，それはひどいものでした。

ヴァイオリンはキーキーといななき，クラリネットはスースーとうめき，チェロは牛の鳴き声そっくりの音を出し，まるで動物園にいるようなものでした。今から9年も前のことです。

はじめのうちは，これはたまらぬとばかり閉口しきっていたのですが，そのひどい音を我慢して聞いているうちに，いつの間にか私は彼等の音楽に好意を持ちはじめました。たとえどんなに技術が劣ろうとも，生真面目な真剣な姿は，人に魅力を与えるものです。そして私は知らず知らず＜もっと弱く！もっと強く！もっと柔らかく！もっと短かく！＞などと，一生懸命叫んでいました。

ひと通り練習が終わると，彼等はこういいました。＜毎週練習に来てください。毎週教えてください。毎週ぼくたちを怒鳴ってください＞みんなは，とても真剣でした。よしやってやろう，と私も思いました。それから9年間，来る週も，来る週も，練習に通う私の生活が始まったのです。

最初の練習の次の週，すぐ私はこう提案しました。＜たとえ今は12，3人でも，ぼくたちは大きな交響楽団を目指そう。アマチュアで最高のオーケストラを作ろう。今日から，みんなで力をあわせて，計画を立て，具体的な目標を作り，新しい運動を起こそう＞夢多き青年たち，未来に賭ける若者たちに，この提案が受け入れられないはずはありません。

そして熱気のみなぎる練習が始められました。団員はどんどん増えはじめました。

§　　§

そして，そのうちに，団員の投票による＜新交響楽団＞という名前も，団規約も作られました。週一回の練習は確実に，厳格に続けられました。私は強引に，一切の妥協を排して，機関車のようにみんなを引っぱり続けました。わめき，怒鳴り，棒をたたきつけ悪口雑言をはき続けました。

それでも，みんなはついてきてくれました。一日の仕事を終え，疲れた身体を混んだ電車にゆられ，団費をはらったうえでガンガン怒鳴られるのですから，こんなに分の悪い話はありません。それでもみんなは集まってきます。おそらく，音楽を作っていく楽しさや，自分を，そして自分たちを，よりよくつくりかえていくよろこびの前には，このつらさや苦しさなどは，もののかずではなかったのでしょう。

§　　§

長い練習期間を終えてから，ベートーヴェンの「運命」をフィナーレとした第1回の演奏会をもってからは，団員も飛躍的にふえてゆきました。そして更に数年，今や新交響楽団は，三つのオーケストラと，一つのブラスバンドをもつほどに成長しました。今考えると，9年前のことなど，まるで夢のようです。

しかし，そうはいっても，この9年の間にはいろいろな形の壁が，私たちの行手をさえぎりました。まず一番最初に現われたのは，＜たとえどんなに下手であっても，どんどん職場の中に入って，できるだけたくさんの人に聞いてもらうべきだ。行動を起こさなくては，苦労して練習する意味がない＞という意見と，＜ろくな演奏もできないようでは，人にたのしんでもらうわけにはゆかない。まず自分たちで楽しむべきだ＞という意見の対立でした。

これは一概にどちらが間違っているとはいえない問題です。私たちのオーケストラは，そもそも道楽としてでなく，一つの音楽運動として始められたのです。演奏活動をぬきにして考えるなどということは，当然あり得ません。しかし，そうかといって，自分たちでさえ楽しめないでどうして他人を楽しませることができるでしょう。この両方の意見には，それぞれ一面の真理があります。結局，この面倒な問題は，最も基礎的なアマチュアオーケストラとして最低の技術的条件を具えるまでは，練習に専念するということで，意見の統一に達したのですが，こういう問題が起こったおかげで，団員たちはあらためて，自分たちはどうあるべきか，について深く考えることができたように思います。

とかく，サークルにあっては意見の対立が，トラブルとして扱われがちです。

しかし私は，この問題がみんなの力で解決できたとき，どんなサークルも成長の段階では様々な障害が起こり，それはトラブルと呼ぶべきではなくて，むしろ



次の成長への栄養剤と考えるべきだということを知りました。

§　　§

団員も増え，技術も高まってくると，もっと大きな壁がやってきました。

それは，団員間の技術の差から起きるオーケストラ全体の進歩の停滞です。

技術の低い水準にあわせて練習すればオーケストラの進歩は止まり，技術の高い団員は脱落してゆき，反対に高い水準にあわせれば，一時は多少進歩しても今度は技術の低い団員の脱落が相次ぎ運動は衰微するという結果を生むのです。どっちにしろ，進歩は止まり，運動は力を失う。

こういう矛盾は，オーケストラに限らず，合唱サークルにも，その他のサークルにもあるはずです。そこで，私はオーケストラを二つに割ることにし，みんなにそれをはかりました。新響発展のために，それは絶対条件でした。ところが，その意味をみんなが本当に理解するまで非常に長い時間がかかりました。ほとんど2年近くの間，私は説明し続け，やっと，技術の高い第一オーケストラと，技術の低い第二オーケストラとが生まれました。その結果は，私でさえ驚くほどの効果が，またたく間に現われました。

第一オーケストラは見る間にぐんぐんうまくなってゆきましたし，第二オーケストラは急に団員がふえて，すぐ第三オーケストラを作らなくてはならなくなりました。実に重い壁ではありましたが，それはやはり，どうしてものり越えなくてはならない，大切な壁であったと思います。そして今，おそらくもっと重い，第三の壁への挑戦が始まっているのでしょう。

§　　§

新響は，現在，最大の団員，最高の技術をもったアマチュアオーケストラを目指しています。9年の歳月を経ても，まだまだ前途は長く，ようやくその基礎工事が終わった程度にしかすぎません。しかし，その間に，私が体験したものは，実に大きな重みをもってお



ります。それはとても簡単にいいつくすことはできませんが，新響は私の生涯にとって，かけがえのないものであることはたしかです。たとえ，今すぐ新響をやめたとしても，この9年間に起こった夢のように素晴しい感激や，たとえようもない苦労や，いやんなるほどのうれしさや，そのなかから学びとったものは，これから先の私の生活からはなれることはないでしょう。

§　　§

音楽はすべての人々のものです。そしてすべての人々は，そのよろこびを手にする権利があります。音楽はまた，人の心と心とを結びつけるものです。だからこそ，音楽の価値は，その外観や技術の高さによって計れるものではなく，いかに人と人とを結びつけたかにあるのです。たとえどんなに素朴な外観をしていようとも，人の心をとらえる音楽こそ，価値高き大音楽というべきでしょう。

それを自分の身体で実感しつつ生活できることは，音楽に生きる者にとって，どれほど大きなしあわせかわかりません。また団員みんながはっきりとその意味をつかみとっている限り，新響はどこまでも伸びてゆくでしょう。この世に音楽ある限り——。

≪演奏会にこぎつけるまで≫

司会　まず，最初は軽く楽屋裏話ということで…。演奏会をひらくまで，いろいろと苦労があると思いますが……。

中村　演奏会へこぎつけるまで，いわゆる裏方が活躍するわけです。プロだと裏方専門の人がすべてやってくれるわけですが，新響の場合はプレーヤー兼裏方ということになるわけで，演奏の方はおろそかにできませんし，その点つらいですね。演奏会が終って，花束がタイミングよく出てくるかということまで心配しなければならない。

戸田　注意が演奏だけに集中できないというわけ。気が散りますよ。

中村　昨年10月，八王子で演奏会をやったとき，第1クラリネット奏者が時間どおりこなかったんです。しかたがないんで曲の順を変更して始め，あとで奏者が遅れてきたのでようやく終らすことができたんですが，わけを聞けば無理もないんですね。会社で夕方近くなって川口まで行ってこいという課長命令が出たというわけです。ちょっと危ないな，とは思ったそうですが，命令とあれば仕方がありません。行ったら案の定，予定が狂って，開演に間に合わなかったいうことなんです。彼の姿を見るまでのつらさといったら，なんといいましょうか。しかし，わけを聞けば，怒るに怒れませんしね。

≪"トラ"に体当り依頼≫

司会　メンバー確保の苦心などはどうですか。私，まえに人事をやっておりましたとき，ホルンが1名どうしても足りないんで，宮内庁楽部までゆき，お願いしてきたということがありましたが，最近はいかがですか。

林　昨年5月にブラームスの1番をやったときですけど，コントラファゴットがいなくて苦労しました。文化会館の廊下に楽器を持っている人がいたんで誰だか分らないが頼んでみたらN響の方なんですね。心よく承知して下さって，ホッとした経験があります。

井上　学生のときですけど，本番直前になってもクラリネットがいないんです。ちょうど近くに録音スタジオがあったんで，クラのケースをぶら下げている女の人を見つけ，引っぱってきたことがあります。

〔出席者（ABC順）〕

林　　誠	（第1バイオリン）
井上　卓也	（オーボェ）
加藤　エリ	（第2バイオリン）
中村　一郎	（フルート）
戸田　昌宏	（トロンボーン）
（司会）	松永　昇

＜1月17日＞

林　「上野の森へトラ（エキストラの略）狩りに行く」なんてことをいいましてね。でも，今の新響は殆んど楽器はそろっているので楽になりました。

司会　何十名もの楽譜を扱うのも大変ですね。

林　本番直前になって"オレのパート譜がないよ"なんていわれると心臓が止まるほどドキッとしますね。

戸田　そんなときに限って，他の人のパートの中にまぎれこんだりしていて，見つかると"あったよ"なんてケロリとしている。こん畜生！といいたくなりますね。

司会　会場を確保するのも見えない苦労の一つと思いますが……。

中村　東京文化会館は1年前，日比谷公会堂は半年前から予定がきまっています。この2月の会場も，実は10月に予約したんです。そのとき，予約金を半額おさめるんで，何万円も寝かせるわけですから，つらいですね。

司会　1回公演をやると，いくらぐらいかかりますか。

中村　約35万円ですね。入場料だけではとても足りないんで，プログラムの広告が頼りなんですが，なかなかとれませんしね。学生オケなどの場合は同情もあってか，割合い出してくれるんですが，社会人となると渋くなりますね。

林　雑用をタダでやるので，バカ呼ばわりするような人もおります。

戸田　しかし，自主公演をやってまだ赤字を出していないのは，誇りにしてよいと思いますね。

≪理解してほしいオケ活動≫

司会　我々のようにアマチュアがオーケストラを楽しみ音楽を追求してゆくという存在を，みなさんの周囲の人々にどう受けとられているかということですが，いかがですか。

戸田　たしかに，アマオーケストラ活動というものが，スキーとか他のレジャーのように知られていないのは確かです。ポピュラーな曲だとすぐ喰いついてくるんですが…。

中村　だれでしたか，会社の人を演奏会につれてきたら，伴奏ばかりで，歌手は出ないのか，なんて聞かれたそうです。（笑）歌謡曲大会ぐらいに考えている人がいるんでしょう。

井上　アマオケだけでなく，プロオケの場合だって同じことでしょう。オケを聴くという層は非常に限られているわけですね。オケメンバーが芸術意欲を満たすために演奏をするんだということが分らないと思うんですよ。プロにしてそうなんだから，アマオケの聴衆はなおさらですね。逆に言ってアマオケへ入っている人も単に楽器をいじる道楽に終

らすことなく，音楽をするんだ，というふうに自覚すべきだと思いますね。

≪アマオケのカラを破って≫

司会　それは非常に重要なことだと思いますね。我々の新響が一応オケらしい形態になって，さらに向上するためには，何かカベを破らなければならないと思うんですが……。

井上　とにかくオケ全体をよくするための基本条件は，個人の向上ということにつきますね。各個人が音に対してもっと真剣に考えてほしいと思います。ということは練習について自覚しなきゃならないんです。練習に参加することに意義を見出している人もあるようですが，それだけで自己満足に陥っているのじゃないでしょうか。演奏会に間に合いさえすれば……というんでなくて，その日その日の練習を大切にしたいと思います。練習は1カ月に4～5回，1回がわずか2時間半なんですから，もっと大切にしたいと思います。

中村　日紡貝塚じゃないけれど，ハードトレーニングでいきたいですね。

戸田　しかし，人間とかくダラケたい方が先立ちましてね。だけど，新響も，ずいぶん周囲に認められてきていると思います。アマオケ仲間では，相当名前が通っていると思いますよ。

中村　アマチュア同士では良い方かも知れませんが，聴衆は同じ金を払うんなら，プロを聴くということになりますし，そこが問題ですね。

井上　アマ仲間だけを見ていたんじゃ自己満足に陥いるのが精いっぱい。いわゆるアマ精神を脱してゆくようにならなければいけないと思います。新響の音楽を，こういう風にやるんだということを示す必要があるんです。

林　アマチュアの奏者のレベルも相当上ってきているといっても，数年前から比べれば，上るのが当然なんで，安心するのは禁物ですね。

中村　音楽人口がドンドンと上昇しているんだから，レベルの上るのは当然のことでしょう。我々は，それに先だって行かなければならないということですね。つまりもっともっと上手にならなければならないということです。演奏される音楽そのもので対決するより仕方がありません。

≪演奏旅行をめぐって≫

司会　昨年は4月に北海道，今年も4月に四国一周の演奏旅行が予定されていますが……。

加藤　委員の方は大変でしょうが私達は大変楽しみですわ。

戸田　新響の名前をPRするということで，なるべく各地に出かけたいと考えています。

中村　1週間，寝食を共にするんですから，団員がお互いに理解し合うには絶好のチャンスですね。反面，楽しすぎてダラケるという悪影響もあるようですが……。

戸田　北海道一周で，学生なんかと違って，社会人の集団だということをつくづく感じましたよ。別に点呼を取るわけでもなく，時間表を渡しておけば，80人近くの人がチャンと集まってきて，北海道を1週間もまわり，それで何の事故もないというんですから，確かに大人の団体ということを，感じましたね。

司会　前回の演奏旅行で印象に残ったことを……。

加藤　最大のトピックは，函館の民宿でしょうね。（一同，笑）

井上　確かに大歓迎なんですが，ちょっときつかったですね。何しろ寝かせてくれないんだから。こちらは夜行で，すぐ演奏会なんですからね。それから印象深かったのは，各地で終了後ひらかれた座談会。

戸田　地方の方が一生懸命聴いてくれますね。我々の理念が通じるようで，うれしいですよ。

≪新響のファンを作ろう≫

司会　これからの活動予定は？

中村　新響，特に1オケは演奏活動が第一目標ですから可能な限り演奏会を持つということですね。当面2か月に一回定期をやるのを理想にしたいと思います。そして新響のカラーというものを育てあげ，定期会員というか，新響のファンを作りたいですね。新響は1度聴いたからもういいというのではなくて，新響なら何度でも聴きたいというような聴衆が欲しいですね。このためにはやはりいい音楽を立派に演奏しなければならない訳です。

≪ベートーベンの
交響曲連続演奏を≫

司会　今後取り上げる曲目は？

中村　それこそ沢山あります。いまのところ，ほぼ確定しているのがベートーベン・チクルス。4か月で1番から9番まで全部やります。「1，2，3番」「4，5，6番」「7，8番」「9番」というふうにわけ，来年の3月～6月か又は9月～12月のどちらかになるでしょう。

その他オーケストラの基本となるような曲，例えばバッハ，ハイドン，モーツアルトなどの曲も是非やらなくてはなりません。やるべきものは非常に多く，我々に与えられた時間はたいへん少いようです。

司会　このへんで。

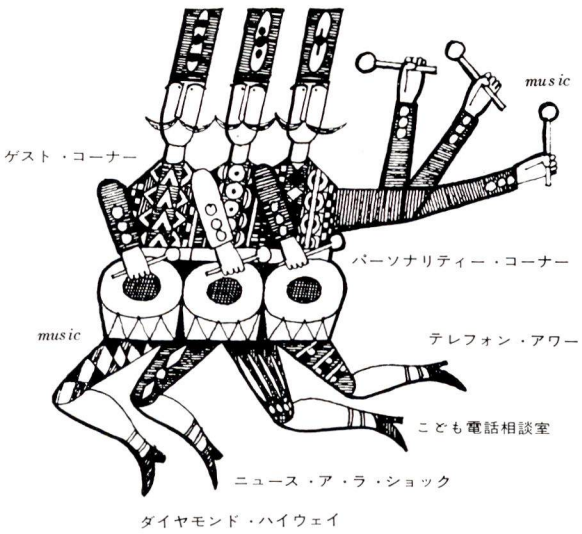
あなたの午後に
3つの個性が
呼びかける
午後のラジオ

OWNER
オーナー

1:00～6:00PM

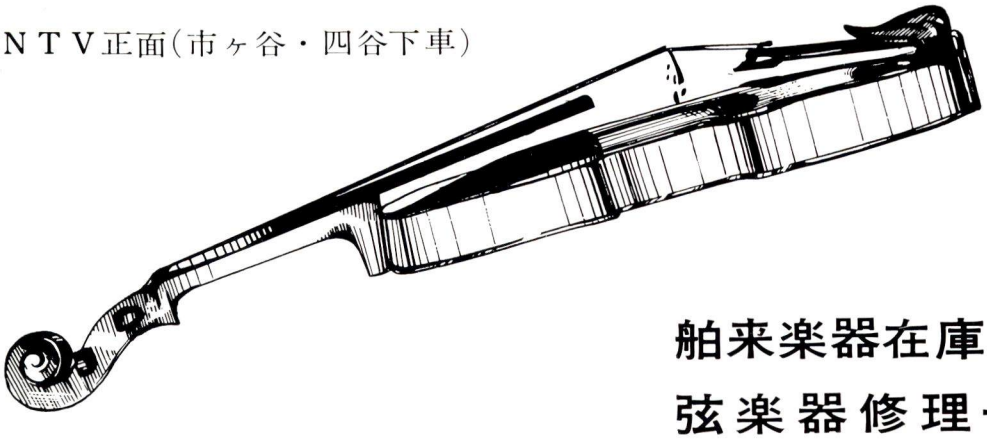
月・火　芥川也寸志
水・木　小島正雄
金・土　三国一朗

950KC
ラジオ



VIOLINの店

NTV正面(市ヶ谷・四谷下車)



舶来楽器在庫豊富
弦楽器修理一般
迅速丁寧

七沢VIOLIN商会

TEL (261) 0973

キャップを取らずに使える 新しい容器入り



液体 花王フェザーシャンプー

ピンク（一般用） グリーン（乾性用）

●一般の方は「ピンク」で、しっとり、つややかな髪に洗い上がります。

乾性で、パサパサになりやすい髪の方は、「グリーン」をおつかい下さい。

アブラッ気をとりすぎることなく、髪にしっとり感をあたえます。

●スマートな容器、美しいピンクとグリーンの透明な液……

夢を呼ぶ高級シャンプーです。

●容器が透明なポリびんなので、使った分量がひと目でわかります。また、落としても割れません。

一本百円（200c.c.入り）

花王

花王石鹸株式会社